

西穂高岳

毎日新聞旅行

3～4日



西穂はヤセ尾根と岩稜の山であるということだけでずっと避けていた。このままだともう登らないことになってしまう。やるなら今しかない、という思いで登った。

ツアーリーダーは、ついこの間の7月に会津朝日岳でお世話になった、毎日新聞社員の佐野さん、平日は新聞社職員で土日のツアーのみリーダーを務めるという。サブは去年6月に北陸・大笠山でお世話になった仙石さん、ヨーロッパアルプスで山岳ガイドを主戦場としていたプロのアルピニストである。今回はラストを歩いていたのでいろいろと話を聞く機会が多かった。現地ガイドはありあけ山案内人組合の小久保さん。西穂高山荘で



一杯飲みながら話をしていたら、2007年3月に西穂・丸山での雪山訓練ツアーで案内してもらっていたことが判った。

初日は125人乗りという2階建ての新穂高ロープウェイで2156mまで登ってしまって、1時間ちょっとで西穂高山荘であるのでなんということはない。ここでガイドの小久保さんと話が弾んでしまった。彼は、普段は酒造会社に勤めていて山のガイドは土日しかできない、などという話をしているうちに、ビールロング缶・小久保さん持参の生酒のペットボトルは二人で500ml・私からのお返しとしてワンカップ焼酎1本ずつ、夕食時にはさらにワンカップ1本とやりすぎてしまった。翌日のヤセ尾根と岩稜のことなんかどこかへすっ飛んでしまったのだから、飲ん兵衛の意地汚さも極めりだ。

さて、いよいよ本番の西穂高岳への登頂である。4時半にはスタートします、と言われていた。普段であると、こんな時には3時ころからガサガサ音を立てる人がいるのであるが、4時になってもやっと起きる人は出てきた。私も起きて朝飯用に配られた弁当を食おうと思ったら見つからない。結局ザックの下の方から出てきたが、焦ったよ。おにぎり二つのうち一つ食べるのがやっとだった。夜中に小便にたった時にケッコウ寒さを感じた。雨具のズボンを身に着けている仙石さんを見かけたので、“雨、降ってますか？”と聞いたら、“ご自分で確認してください。”と言われてしまった。いつもは登山中でも何を話しかけても気さくに答えてくれるのであるが、山での基本的なことに関しては相手が客であろうときちんと締める。さすがプロのガイドである。山好きな経営者の運営する会社の山岳部顧問などということも職業の一つにしているみたいだ。二世代くらい歳の違う会長さんから、社



員の前で「ともだち」と呼ばれてカッコ悪いんですよ、と話していた。

岩稜登りへは本当に 4 時半にヘッドランプでスタートした。といっても丸山あたりまでの 1 時間くらいはまだ岩場は現れないので安心して歩ける。ところが私のヘッドランプが全く暗い。購入以来電池の交換をしていなかった。休憩時間に予備電池と交換してやっと使えるようになった。普段は夜中の小便の時くらいしか使わないので気にもしなかった。ヘッドランプでの山歩きなんて 3 年ぶりくらいか。前日の飲み過ぎで頭が痛いのと共に年寄りの山登りにしては注意が足りない。

独標が近付くと岩稜帯になる。2010 年に行った槍穂の縦走に比べればたいしたことないよ、と言いついて聞いてあまり前の方を見ないようにして足元だけを見つめて歩く。前夜一杯飲んだ時にガイドの小久保さんが、“西穂も以前に比べれば歩き易くなりましたよ”と言っていた。確かに歩くところはしっかりとよく整備されている。メンバーは男 6 人、女 15 人のいつものように 1 対 3 の割合。最近はこのパターンが多い。休日



であるので若い人も交じっている。今回のおばちゃんは、岩場でも足を止めて“左足をこっち”などと話しながら和気あいあいとやっている。後ろがつかえていたって気にするふうも見えない。いつものバアサマだとこんなところでは口を引き締めて黙々と歩く人が多いが、ちょっと違う。

今年の夏山は雨にやられるのが普通になっていたが、今回は台風 12 号の動きがゆっくりになったおかげということで、最高の天気であった。前回のまいたびの同じコースのツアーは雨のため独標止まりであったという。今の俺のバランスでは雨が降ったりしたらこのコースは無理であろう。俺が 3 点確保を忠実に守ってよちよち歩いている岩場を、仙石さんはアスファルト道を歩くような格好ですいすいと歩いている。“ロッククライミングもやるのですか？”と聞くと、“私の本職はロッククライマーなんです”との答えであった。独標まで戻ってきて、後は少しは楽になるだろうと思ったら、やっと仙石さんとの話もできるようになった。ヒマラヤの話などをしたときに、私が 4 月に行ったスリヤピークでサード（シェルパのリーダー）を務めてくれたアン・ドロジーのことなどもよく知っていた。世界を股にかけて活躍している現役のクライマーといった感じである。個人事業主の経験者として先輩ズラして、確定申告のやり方などを講義してやった。もっとも事業としての規模は彼の方がはるかに大きい。

最近、俺も年取ったということでネガティブな考えになることが多かったが、久しぶりにポジティブな考えでいることができた。

